

## 淡路島から明治大学そして奈良県へ

私は阪神淡路大震災の震源地に近い兵庫県淡路市（旧津名郡一宮町）、伊弉諾・伊弉冉尊（いざなぎ・いざなみのみこと）を祭る伊弉諾神宮の近くで生まれ育ちました。中3の時、地元から明治大学文学部にいていた植野先輩が教育実習に来てラグビーや大学生活の話をして、東京での学生生活にあこがれは持っていました。また津名高校在学中、淡路島出身の作詞家、阿久悠氏と洲本高校で友人だった安田先生がおられ、阿久さんは高校在学中から、替え歌が上手く、なぜか明大志望だったことを聞いていました。そして昭和49年に明治大学の農学部に入學、あこがれの東京での学生生活が始まりました。

農学部は生田校舎にあり、大学院に進んでいた植野先輩がいた法華講堂という法華宗本門流の僧侶や檀家子弟の寮に入り、山手線の大塚から小田急線の生田まで4年間通学しました。当時、国労が順法闘争で池袋～新宿間はすごい混雑でした。大塚は東京の歓楽街の一つで坂東玉三郎の生家の料亭などがある三業通りがあり、母方の大叔父の墓がその近くの寺にあったのにも不思議な縁を感じました。都電が通り、駅の南側には大塚名画座があり、「夜霧の忍び逢い」などの古い洋画が見られ、駅の北側はとげ抜き地蔵で有名な巢鴨地蔵通り商店街があり、非常に暮らしやすいところでした。

サークルでは農業問題研究会や剣道同好会に入り充実した学生生活を送ることができました。農業問題研究会は農業経済学科の人が中心のサークルで、議論が煮詰まるとよく部室で飲み会をしていました。しっかり活動をしていて静岡県富士市と、福島県三春町で援農と農村調査を行い、東海、東北地方の農業の違いを実感することができました。顧問は農学原論の寺田由永先生で報告書の原稿を随分熱心に添削していただきました。偶然ですが寺田先生は後に勤務する奈良県農業試験場の場長をされた藤本幸平氏と三重高等農林～京都大学と同窓でお二人とも90才を過ぎてなおご健在のようです。また剣道同好会は、校友会長をされている向殿さんが顧問でした。

当時、農学部は農学科、農芸化学科、農業経済学科があり、私は農芸化学科で植物栄養土壌肥料学研究室に入りました。担当の教授は島根茂雄先生で秋落ち水田（夏に水田土壌が還元状態になり、硫化水素が発生し、イネの根が傷み収量が上がらない水田）の原因究明で有名な塩入松三郎先生の門下生で非常に穏和な方でした。島根先生が日本農業研究所から来られて農産製造学科が農芸化学科になり、私は研究室ができて10年目の卒業生でした。卒論では、土壌有機物の研究を始めましたが、どうも実験がうまくいかず、4年生の夏頃から課題を変更し、植物の養分吸収に粘土がどのように影響するかを調べるために、ナタネの種から根を出させてその根を切って粘土を懸濁させた養液に入れて養分を一定時間根に吸収させて分析するという一連の実験を徹夜しながら何度も繰り返しました。確かに粘土の種類やその周りを包む有機物の有無によって根の養分吸収が影響されるようでした。最近、豚に人間の臓器を作らせる研究等で新聞を賑わしている生命科学科の長嶋比呂志教授は同学年です。

2年生のとき、六大学野球で明治は江川選手のいる法政に勝って春、夏と連覇し、神宮球場から駿河台まで仲間と暴飲しながらパレードし、到着した駿河台校舎のグラウンドでは酒の雨が降っていた記憶があります。このとき、救急車の世話になった学生が随分多く出ました。この年は、松尾雄治兄弟のいたラグビー部も対抗戦で早稲田と同率優勝、大学選手権、日本選手権も優勝し、最高の年でした。

就職では石油ショックの影響で肥料会社の業績が非常に悪く、近畿で一番遅かった奈良県の公務員採用試験を受けました。大阪に宿泊、受験票に貼るスピード写真を探して撮っていたためにかなり遅刻しながら試験会場の畝傍高校にたどり着きました。その時に諦めずに粘った執念か鉛筆の倒れ具合が良かったのか、奈良県庁にお世話になることになりました。

はじめ、農家への技術指導を行う農業改良普及員として高田農業改良普及所に配属されました。土壌肥料の知識はそこそこあっても作物の栽培、特に担当の花の栽培についてはまったく知りませんでした。栽培を勉強するため、橿原市のアパート近くに畑を借りて野菜やキクを栽培しました。その後15年間、農業試験場でユリやバラの栽培研究に従事しました。ユリの研究では学会などの発表が注目されましたが技術が普及せず、バラの研究に転じてロックウールによるバラの養液栽培や接ぎ木と挿し木を同時に行う接ぎさし方法の研究を行い、県内のバラ農家が今も使う技術として普及しました。また松下電器（当初は松下住設）と共同で開発した石油ファンヒーターによる炭酸ガス施用装置は、従来の液化炭酸ガスを使う方法より安価で、1年で投資以上の増収となり、バラだけでなくイチゴ栽培にも利用されるようになりました。その後も農業関係の仕事に従事し、現在は中部農林振興事務所の所長として勤務し、歴史豊かな奈良県での生活を楽しんでいます。

今まで色々な人に助けられてきましたが、私も退職まであと2年半となり、子供の結婚、老後の生活設計が気になる時期が近づいてきました。これから仕事以外の人とのつながりも大切にしたいと思い、明治大学校友会奈良県支部に参加させていただいています。今後ともよろしく願います。

昭和53年農学部卒

渡邊 寛之